

又一書林の撰多人の令我用く遊身一放逐の如く他國一人と
さし付互人の如く一未くを別を告く道人を憐れ我一人の死ん
としいく持宗の書画調度を書き其令我つゝのいゆ事せし
めたり申ふもあふは石刻の十三經を坊人より年比のふり
かたたりりる不の浅而貴なるに書價あふ焦す嘆息し
其浅を祇園の移す納す付小師社修造の事いひて其付の
まろむりろみちありて家小巴を画き飛連の拾貴久小拾か
門人の書札服を乞ふ其竹の捧りて一石一石司を名
掲んとしを固く辨けし水と流るるいりて一ととて玉
圃とてさきう定く其新の活いんと有る今小師記傳の
の

奉仰之其死病の時一めより書を服き其母の記を法し
如附安永年中は月十三日去葛原の弟小孫の歳六拾有は舟園の南
降光と久人の墓の側小葬る墓誌は大典禪師著し石刻む
其為人の令師の墓誌より其師の活を流し其書を記す

土肥二二

二三俗稱と肥後多國とよし之を石田府牧野彦は一孫武石成
食む一のを先いゝ忽陽ふを生しつわを辨し其ありし
り付時しつづつ者し又おまをたけんしり其のしを人ふ
おむせし書とふか今このふに似つるしりおふは法師の名に

ふかといふふまゝい名にさす一ニとも二ともかたけり一といふあやめて
二三と書きたまひ是能名ことくまらり一たふ之縁始の園海にほく
自在水といふ流る勝を容る斗也

大宅ともさくく大宅ふあめくハ

直ふ自在の灌子よりり利

是の形の名によひりば茶織田の風を思ひ又香を好む平家
をけりく琵琶琵琶いふともさふあり一も常におまくく斗の炭
版をさりり一ふのふけ古の法を縄つあきてりいふをいふかとい
むかり一人かめ一とといひ一とくく物ふんをさめき流集
す田舎さあ一かまらふ令式をたくり一其色紙ふつふ

あくも何きあんあくく猴をかく一流りれい其費小衆
あくと書付一ハ物論の神をさるつせたるより一あやまよ三つこ
さねとさくよあま一人のく齡九拾小迫つきく是語とまく玉瓜
の茶店一物喰ふ事日ふ二度二拾文後一日をこままは是御といも
ね一とあん始ハ大内番といふ者ふ茶をたくり一也家一もまも物
成入一杜礮と流りふ琵琶一白平家二巻を三河の士山田氏小
はく一今あや其家小藏よりあん

是れい

ふ風のた〜

クアキ 陸長三

ふと

は

はる

紫川



菊酒の故実

加刺金に浅野川の水原が白菊の園とありてありて大書と波士
致歩を〜〜〜〜〜人致水原成つ〜〜〜〜〜
り〜同士と〜〜〜〜〜名權二〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜見書一〜〜〜〜〜白落〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜是は心容の〜〜〜〜〜
川水〜〜〜酒を製し〜〜〜〜〜
や〜〜〜残まり

九人橋の奇事

〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜